

医療費増大、高齢者支援金の負担増

健保の負担は増すばかり…

ボクたち、日々適正な受診を心がけたり、病気をしないよう予防に努めたりしているのに、健保組合の財政は、年々厳しさを増しているのはどうしてなんだろう…。



国民の医療費は年増1.5兆円※！ 総額にしてついに41兆円超えに

高齢化の進展や抗がん剤オプジーボなど高額薬剤の使用頻度の増加などから国民医療費の膨張が進み、平成29年の健康保険組合を取り巻く環境は依然厳しさを増しています。

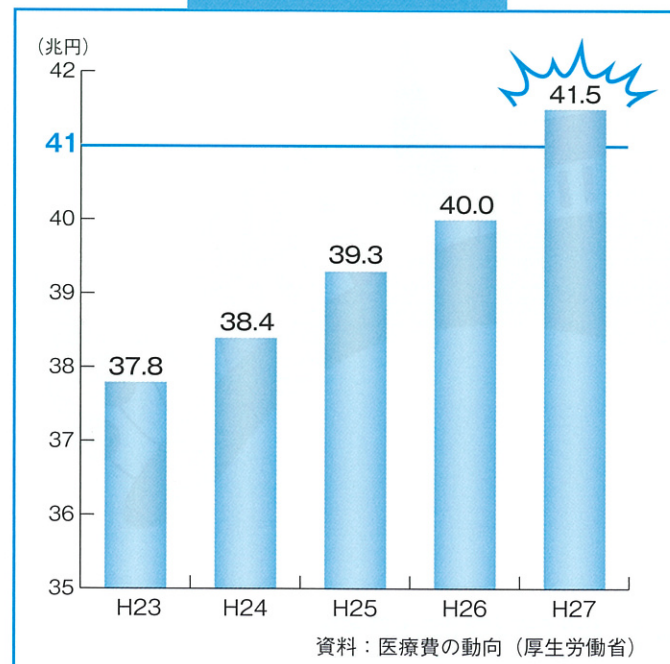
厚生労働省によると、平成27年度の医療費（概算）の総額は前年度比約1.5兆円増の41.5兆円に上り、ついに総額が41兆円台に達しました。1人当たりの医療費では、75歳未満が22万円であるのに対し、75歳以上の後期高齢者については94.8万円となりました。

医療費の内訳は、「入院」「外来」が前年度と比べ2～3%増程度であるのに、調剤については前年度から9.4%増と大幅に増えています。この理由として、高額薬剤の使用が増えたことが考えられます。

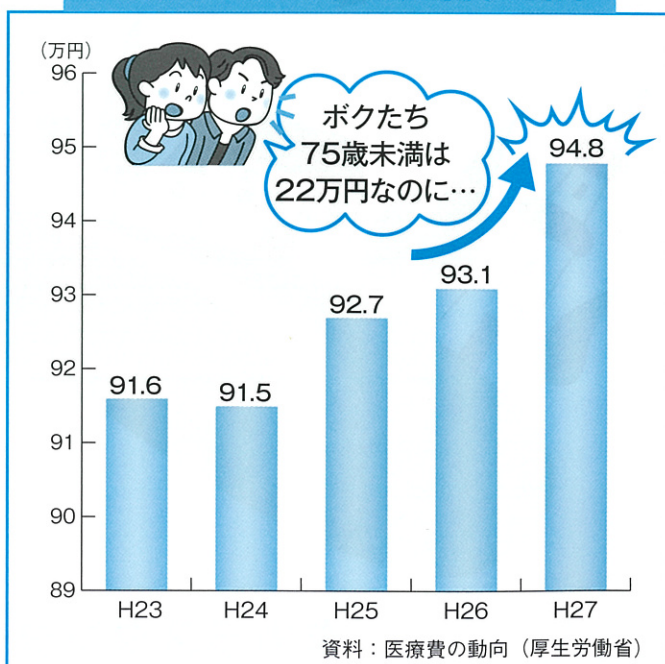
※ここで示す医療費は速報値で、労災・全額自費等の費用を含まない概算医療費です。医療機関などを受診し傷病の治療に要した費用全体の推計値である国民医療費とは異なります。

高齢化、
高額薬剤…
医療費は
増える一方

医療費の推移



75歳以上の1人当たり医療費の動向



平成29年度から

後期高齢者支援金は全面総報酬割でさらに負担増

高齢者の医療費は、高齢者本人の保険料と公費だけでは賄うことができないため、現役世代がその費用の一部を負担しています。健保組合は、65～74歳の医療費については前期高齢者納付金を、75歳以上の医療費については後期高齢者支援金を拠出しています。

これまでの後期高齢者支援金の額は、加入する人数に応じて決められていました（加入者割）が、平成27年度から各健保組合の総報酬額に応じて負担するしくみ（総報酬割）が段階的に拡大・導入され、平成29年度は全面的に総報酬割となります。この結果、比較的収入水準の高い被保険者を抱える健保組合の負担が増えることとなります。

また、介護納付金についても平成29年8月から段階的に総報酬割が導入される予定です。介護納付金が全面総報酬割になった場合、健保組合全体で1,100億円の負担増になると試算されており、みなさんの負担がさらに重くなってしまいます。

■総報酬割を拡大した場合の各保険者の支援金負担の変化

	健保組合	共済組合	協会けんぽ	被用者保険(全体)
加入者数	2,900万人	900万人	3,400万人	7,200万人
総報酬額	82.4兆円	27.9兆円	74.7兆円	185.3兆円
1/3総報酬割①	1.93兆円	0.61兆円	2.08兆円 (うち国費2,400億円)	4.63兆円
2/3総報酬割	2.00兆円	0.66兆円	1.97兆円	4.63兆円
全面総報酬割②	2.08兆円	0.71兆円	1.84兆円	4.63兆円
負担の変化 (②-①)	+1,500億円	+1,000億円	▲2,400億円	±0億円

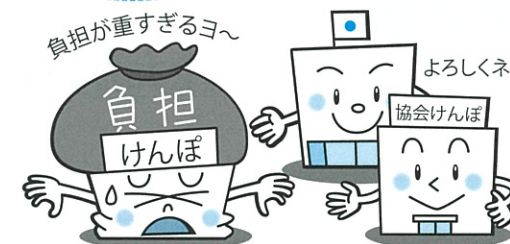
資料：平成27年度厚生労働省推計

負担増！

1/3総報酬割の国費分の
つけを回されたことにな
るよね

負担減

負担が重すぎるヨ〜



健保財政安定のためにも

1人ひとりの健康意識の向上が求められます

厳しい財政状況が続くなか、保険者機能の強化が求められています。

健保組合においては、データヘルス計画を推進し、加入者のみなさんにとってより効果的で効率的な保健事業を展開していきます。それによって、みなさんの健康度を高め、医療費抑制、将来的に健康長寿者の増を目指します。

みなさんにおかれましては、毎日の生活の中で、運動不足を感じている人、食生活が乱れている人、睡眠時間が足りていない人、たばこを吸っている人、酒豪を自慢にしている人、そして健康だからと健診を受けていない人はいませんか？ どれか1つでも改善することで、必ずあなたの体は変わります！ 自分の健康は自分で守る「セルフメディケーション」を意識し、積極的に健康管理にかかわっていきましょう。健保組合もこれまで以上にみなさんをサポートしてまいります。

健保組合の取り組みにご理解いただき、
ご自分の健康維持・増進に積極的に保健事業を
ご活用ください！



※保健事業は、健保組合ごとに独自の事業を展開していますので、詳しくは健保組合にお尋ねください。